

第 63 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

7月の研修会は、先月に引き続き湿生生態園の植生管理作業及び、ホトケドジョウのビオトープ再生を行いました。



7月の研修会も晴天に恵まれました。
集合場所である里山体験館前の田んぼも、
稲が青々とし、順調に成長しているようです。



講師からの説明を受け、
午前の湿地管理の作業スタートです。



こちらは湿地環境を観察することができる、湿生生態園。

以前は流れの途中に木杭の堰があり、全体に水が行き渡って湿地環境が保たれていましたが、木杭の堰が流されてしまい、陸地化が進んでいる部分が出ていました。



そこで今回は湿生生態園全体に水を行き渡らせるため、根茎を伸ばして繁殖するヨシを右の写真のように根ごと切り取って、そのまま移植し流れを堰き止めました。



陸地化してしまっていた部分にも水が行き渡り、湿生植物が生育しやすい湿地環境になってきました。



先月に引き続き、多様な植生に戻るよう、
繁茂すぎたヨシなどの刈り取りも行いました。



その後、前回までの研修では調査しきれなかった地点の植生調査をし、
午前の作業は終了です。



食後、秋に計画しているイベントの企画を
詰めました。だんだん形が見えてきたようです。



午後はホトケドジョウのビオトープの再生です。



今回は主に、ホトケドジョウの水路を覆っている樹木の伐採と、
前回までに切り倒した木から、水路の管理に利用できる粗朶などを作る作業をしました。



水路に陽射しが入るようになりました。
ホトケドジョウが産卵するのに必要な水草が繁茂した水辺になるよう期待しています。



左から、田んぼ脇にいたミヤマアカネ、湿生生態園にいたナナフシモドキ、そしてタヌキの足跡です。

8月も暑い中の作業になると思いますが、植物の生長や、生きものの暮らしを身近に感じながら作業できるいい機会です。ぜひ、現場研修会にご参加下さい。